

図書館通信 —72—

1985. 7

「学術情報システム」の現状と本学の対応

附属図書館整理課長 松村忠文

5月下旬編集部から標題の内容の原稿依頼を受けたが、本学着任2カ月であり学内事情はもとより、図書館の現況についても勉強中であるため、このテーマについて云々することは尚早の感がする。したがって、私の大学図書館員としての体験をとおして当面の課題となっている本学図書館の業務電算化について考えてみたいと思う。

最近の飛躍的なコンピュータ機器の発達と高度な通信技術の発展により、これらを利用しての多種多様なネットワークシステムの開発が産・官・民を問わず競っていることは衆知のとおりである。

いま、文部省が進めている「学術情報システム構想」と、いよいよサービス開始期に入り本年度から文献情報センター（全国共用利用施設）に東工大、名大、阪大の図書館電算システムを接続し、第一段階としての目録所在情報サービスが一部開始された。

このように文献情報センターのサービスシステムが具体化してくるに伴い各大学図書館の関心が急激に高まっており、すでに専用電算機が導入され図書館ネットワークに参加準備を進めている大学が20館に達しようとしている。他にも当該国立大学の情報処理センター等で図書館のハウスキーピング・システムを運用している大学を含めると約70%以上の図書館が何らかの業務電算処理を行っているのが現状である。

本学でも、今月（5月）の図書館委員会において業務電算化計画案が承認され、61年度電算機システム導入を目的に概算要求書を提出する運びとなるに至った。

他大学に比し少々遅れを感じるが、これはスタートの問題ではないと考える。本来この構想の一つには、氾濫している大量かつ多様な学術情報の中から、研究者が求める情報をいかに選択し、迅速に提供するかであり、このような要請に応え

るため図書館業務を電算化し、さらに図書館ネットワーク・システムを構築しようとするものである。したがってこれは同時に、図書館業務電算化の最終目標でもあることを忘れてはならず、当該大学の実状に照らしながら、これを円滑に移行するためには電算化しようとする個々の業務についても具体的な目標を設定し、目標間の優先付についてもエンド・ユーザに対する配慮を欠くことなく慎重かつ十分な準備が必要であろう。

本学における電算化に対する態様の経緯をみると、細井前館長は緊急な検討事項（本誌60号）として掲げられ、58年4月図書館委員会のもとに図書館業務電算化委員会を設置し、「学情システム構想」とその対応についての検討に入っている。

同年7月、大月現館長が就任され、電算化に向けての基本方針及び具体的な概算要求資料の作成を進められ、学内の理解と協力を得るに至ったのである。また館員は、作業部会を設け電算化について研修を兼ね、業務の分析を行っており、近い将来、学情システムに参加することにより、さらに本学における研究・教育活動の振興に図書館が寄与できることを期待し、本学における図書館業務電算化を早期に実施できるよう努力したい考えである。

もくじ

「学術情報システム」の現状と本学の対応	1
私のすすめたい本	
『花の色の謎』『野草の自然史』	2
『半導体物性』	2
「静岡大学雑誌目録 欧文編」	3
『〈女の物語〉のながれ』楽屋話	4
資料案内	5
お知らせ	6

〈私のすすめたい本・52〉

安田 齊著

※『花の色の謎』 東海大学出版会

長田 武正著

『野草の自然史』 講談社

玉置 繁一

数年前までは、車で通勤していたが、転居と同時に徒歩に変わった。歩いて通っていると、今までただ通りすぎるだけであった大学構内の細やかな自然に気づき、季節の移ろいが身近に感じられるようになった。春まだ浅い頃から、木の芽は動き始め、それが日を追ってふくらんでいく様子には、心ときめかされるものがある。

春の花の時期には、道草をしながら学校に行くこともしばしばある。しかし、ウツギの花も終わり梅雨時ともなれば、降る雨に出掛ける足も鈍りがちである。そんな日に心を浮き立たせてくれるのは、雨を含んでより鮮やかに咲いているアジサイの花である。「てまり花」などとも言われるこの青紫色の花は、日本の梅雨の風景とは切っても切れないものになっている。

このアジサイは、いかにも日本的情緒をたたえた花で、万葉集などにも歌われている日本原産の植物である。現在植えられているもののほとんどは、西洋アジサイ（ヒドランギア）と呼ばれる中国を経て西洋に伝わった日本のアジサイが向こうで品種改良されて、今度は逆に日本に輸入されたものである。

アジサイといえば、花の色が変化することでも有名で、特に西洋アジサイにおいて顕著である。一般には、「アルカリ性の土壌では青い花、酸性の土壌では赤い花が咲く」と、あたかもリトマス試験紙のような変化をすると信じられているが、これは誤りで実際にはむしろその逆で、アルカリ性の土壌に植えた場合には赤い花を、酸性の土壌に植えた場合には青い花を咲かせることが多い。

このような、花のもつ性質に興味をもたれた人は、ぜひ『花の色の謎』を一読されることをおすすめする。この本には、「完全に白い花はない」とか「黒バラはなぜ黒い」など花の色に関するおもしろい話のほか、「花の色の遺伝」や「花の色素の簡単な調べ方」などが書いてあり、植物に興味のある学生なら専門的な知識がなくてもおもしろく読める本だと思う。

また最近の植物ブームを反映してか、植物に興味をもつ人が多くなってきた。そういう人たちと話をしている「植物の名前などを調べようとして

図鑑を調べてもよくわからないし、なにか入門書的な良い本がないでしょうか」という質問をよくうける。諸君の中にも、道の横に咲いているきれいな花を見て何という花なんだろうと思って図鑑で調べてみたがよくわからなかったという経験をもっている人がいることと思う。そういうひとに『野草の自然史』を読んでみることをすすめる。

この本は、見開き2ページに一つの植物を選び、その植物に関するいろんな角度からの知識を提供する形を取っている。右のページには植物名の由来や植物の特徴などを取り上げ、それに関係する分類学的な言葉の説明などをわかりやすくまとめている。左のページには、江戸時代末期の本草家、飯沼慾齋の『草本図説』などからのきれいな図が掲載されていて、絵をながめているだけでも楽しい。そして、おもしろく読み進むうちに植物分類に関する基礎的な知識がつく。

なお、100種類ほどの身近な植物が紹介されているこの本の一番いい読み方として、植物を横に置いて、実物で確かめながらその植物の説明を読むことをすすめる。バイクで走り過ぎようとしている君、たまには道の横の草花に目を止めて、こんな本を読んでみませんか。（教養部・生物学）

〈私のすすめたい本・52〉

菅野 卓雄著

※『半導体物性』

(電気学会大学講座)

山下 繁男

今日では、半導体と呼ばれる工業的に代表的な物質は、シリコン、ゲルマニウム或いはカリウム砒素などであることはよく知られているが、一般的に「半導体 (semiconductor) とは、どんな性質を有している物質の総称であるか」という問いに、歴史的には電気抵抗率が導体と絶縁体の中間の値で、導体 (conductor) の性質を半分 (semi) もっている物質という意味で名付けられたものであったと答えたのに、現在では最早、電気抵抗率などの巨視的性質をもって解答を見出すことは難しい。事実、半導体と呼ばれる物質の電気抵抗率を調べてみると、確かに導体と絶縁体の間にあるが、シリコンなどのこの値は、不純物の含有量で異なり、 $10^{-3}\Omega \cdot \text{cm}$ から $10^6\Omega \cdot \text{cm}$ くらいの幅をもっていて、金属に似た振舞いを示すものから、絶縁体に似た性質を示すものまでであるからである。

斯様な半導体の電子的性質を理解し、半導体と呼ばれる物質の示す性質が由来する物理的機構を明らかにするために、次の三つの事項、即ち、

- (1) 結晶内の電子エネルギー帯構造（結晶内電子が定常的にとり得るエネルギー値）
- (2) 半導体における電子伝導現象（主としてボルツマンの輸送方程式と電子の散乱現象）
- (3) 半導体の光学的性質（電磁波と結晶内電子との相互作用）

を掲げ（本文は七章に区分されている）、更に学生の向学心に障壁をもって対峙することなく、

- (A) 一電子近似のシュレディンガ方程式と攝動論による近似解法を予備知識として前提し、それ以外の量子力学的事項は知らなくても、本書を理解するのに差支えないように配慮され、
- (B) 結果を鵜呑みにすることを避けるために、結果の式を自力で導くことのできるように、式の導出法に関しても、丁寧に解説が加えてあり、
- (C) 観点によれば、理論的に多少の不正確さの生ずることも敢えて厭わずに、理論的厳密さを避けてまで、半導体デバイスの動作や製造プロセスを理解する上での最少限必要な事項のみとりあげて詳しく解説を加えてある。

唯々、学生に半導体の物性の理解を願って救いの手を差し伸べて書かれてある本書である。

全体は、前記二本の主張を基幹に七章に区分され、各章の表題は学問的に確立している概念的表現（堅苦しい表現）の他に、副題として易しい言葉での表現が添えられてあり、更に、その章の内容の半導体工学における意義、位置づけを易しく述べてあるので、勉強する際の目的意識、問題意識が明確になり、各章内の事項の理解に助けられることが多く、確実に自信を得ることができるようになってきているのは、この上なく愉快である。

例えば、第2章 半導体中の電子伝導と輸送方程式 一電流の大きさは何によって決まるか—

オームの法則は電気に関する法則の中で最もよく知られている法則で、回路設計などではごく普通に使われている。一方で、半導体デバイスでみられるような非線形な電圧電流特性もよく知られており、オームの法則が成立しない場合があることも事実である。そこで、オームの法則はどんな場合に、なぜ成立するのかを考えてみよう。

のように、結晶内電子の運動方程式も、ボルツマンの輸送方程式も、このオームの法則の成立、不成立の原由を理解するためにあることが明確になされている故に学ぶ楽しさも又一入増すのではなからうか。

本書は、電気学会大学講座半導体部門の第一巻として、半導体デバイスやプロセスを理解する上での基礎となるように、半導体工学への入門書として書かれたもので、著者の大学専門課程の講義が基本になっています。同部門の半導体デバイス、電子材料工学なども併読されることを希望します。

（理学部・物理学）

（※印は本館所蔵を示す）



『静岡大学雑誌目録 欧文編』

1980年 8月 1日 現在』

——MTより打出し完了——

文献情報センターより譲り受けた学術雑誌総合目録欧文編のMT（磁気テープ）から本学データステーションの計算機（附属図書館に直結の端末機あり）を用いて、この5月上記冊子目録の打出しが完了しました。形はA4, 322 Pのもので計算機から打出したものを、専用ファイルに綴り込んだだけという簡単な製本によるものです。

各学部の一部づつ配布しましたが、特に希望される方は図書館まで御相談下さい。実費負担でその都度計算機より打出して提供することも考えております。ちなみに1冊の打出し費用は計算機利用料金150円、用紙代650円、ファイル代450円、計1,250円+ α （ただし、MT代、プリンタリボン代等は含まない）。

なお、今回の目録はささやかな手作りながら、電子計算機の能力利用によってスピーディに作成できた初めての学内雑誌目録といえるかと思えます。皆様に御利用いただき将来に向けての御批判を仰げればと願うするものです。

『〈女の物語〉のながれ』楽屋話

横井 孝

昨年の秋、『〈女の物語〉のながれ——古代後期小説史論』という妙な名の本を出した。友人・知人たちからは、「メインタイトルとサブタイトルがさかさまじゃないの」だの「一番関心のあるものを書名に選んだ」だの、さんざん勝手なことを言われている。まあ、当たってはいなくもないが、内容は至ってまじめなもので、平安時代（古代後期）の物語文学の中から『伊勢物語』『宇津保物語』『源氏物語』『寝覚物語』『無名草子』といった主要な作品を選び、歴史社会的にも閉塞された〈女〉たちの姿をこれらの作品がどう描き、また逆に〈女〉たちが物語をどう賦活しているのか、という問題を考えてみたもの。——もちろん、これだけでは分らないという人は現物をごらん頂きたい。著者としてはこれが一番言いたいことだ。

こうした専門書にしてはウスッペラな、たかだか250ページに過ぎない本だが、大袈裟な言い方をすれば、ここ12年ほどの私の生活の一部が込められている。卒論を書くために『源氏物語』を読んでいた時、藤壺とか紫の上という〈女〉たちの物語の中での圧倒的な重みが、叙述の物理的な量と必ずしも比例するものでない、ということに気付いた時のカルチャー・ショックがいまだに尾を曳いていて、以後毎年ほぼ2編ずつの論文を書いてきた。それらを構成し直し、さらに加筆修正して成ったのが、この250ページの紙の束なのだ。

——と、エラそうなことを言ったそばから、「実は…」と頭を掻きながらのウラ話をしておきたい。

この本の第14章「『源氏物語』の表現についての覚え書」を書くキッカケの一つとして、『源氏物語』の中に数ヶ所ある「霧のまがき」という語に出会った時のこと。因みに「霧のまがき」とは、籬を立てたように霧がたちこめること、あちらとこちらを心理的にも空間的にも疎隔されることを比喩的に表現した語だ。このような眼を惹く、シャレた表現に出会った時には、先行の用例の有無をさぐるのは常道だから、私も先行の物語作品や勅撰集に当たってみた。とは言え、最近はずボラで無精な人間のために索引類がかなり完備してきたから、いちいち読んでカードをとってゆくようなことはやる訳がなかった。いくつかペラペラッと見

ただけで、『古今和歌六帖』に壬生忠岑の歌として「人のみることやくるしきをみなへしきりのまがきに立かくるらん」とあったのを、これ幸いとばかり「源氏物語以前には……の一首が見出せるに過ぎない」と原稿に書いた。

原稿が印刷所に入り、ゲラも初校から再校、そして責了となる頃、別な用があって『新編国歌大観』私撰集編の適当なページを披いたとたん「さやかにも今朝は見えや女郎花霧のまがきに立ち隠れつつ」（原文は万葉仮名）とあるではないか！何が「…の一首が見出せるに過ぎない」だ。こういう用例の見落としは、まったく恥づかしい。ましてや、この歌を取める『新撰万葉集』のように、文学史の教科書にも載るくらいな作品を閑却しているときは何をか言わんや。今、皆さんが手にするであろう現物の224ページには、「『源氏物語』以前には……の二首が見出せるに過ぎない」と、オツにすまして書いてあるはず。ギリギリの所でストップさせてしまった印刷所の方々、すみませんでした。以後このようなことは…、いやいやズボラな私のこと、またぞろやらかす失敗に違いない。いまだにあの用例が「二首に過ぎない」のかどうか、自信がない。用例検索には必ず落ちこぼしがあること、皆さんの反面教師として頂ければ幸い。

最後に私事をひとこと。

この本を昨年の10月に出したあと、日ごろの不孝をわびるつもりで、まっ先に両親に献呈した。こんな穴だらけの本に喜んでくれた父が、今年の3月に急死した。84歳の高齢とは言え、心の準備も出来ていない時だった。亡くなる数ヶ月前にこの本が間に合ったこと、まさに天の配剤、せめてもの不孝のつぐないになったろうか、と自らの気休めに考えている。（教育学部・国文学）

『〈女の物語〉のながれ』 加藤中道館 出版
(本館で所蔵)

〈資料案内〉

全国共同利用図書(大型資料)一覧

昭和 58 年度～昭和 59 年度

※昭和 53～56 年度分については、本「通信」No.62 を昭和 57 年度分については、No.68 を御参照下さい。

昭和 58 年度

大学名 資料名

〈外国図書〉

北海道：ロシア亡命文学コレクション
 北海道教育：英国教育史コレクション
 小樽商科：モニトール・ユニヴェルセル紙
 東北：米議会・委員会刊行「諸種報告書・文書総集成」(1903—1934)
 図書館情報：英国図書館研究開発部レポート集成
 筑波：国家社会主義法
 東京：カナダ判例・法令集
 東京学芸：ヘボンその他外国人編さんによる日本語・東洋語辞書集成
 東京外国語：朝鮮日報(1921年9月～79年12月)
 東京芸術：音楽学学位論文集
 東京商船：ロイド海事判例集
 横浜国立：ミラボー伯著作・資料集
 上越教育：音楽教育学位論文集
 名古屋：チベット仏教全書
 京都：19世紀英国下院議会文書
 京都工芸繊維：ヤン・トーロップのグラフィック・デザイン—ブックデザインとポスター
 大阪外国語：インドネシア現代史政治資料集成
 兵庫教育：アメリカ教育関係コレクション
 広島：教育科学学位論文に関するコレクション(ドイツを中心に)

香川：フランスの哲学評論

九州：ファイナンシャル・タイムズ誌

熊本：民国二十年代中国大陸土地問題資料

琉球：米国教育行政研究資料

〈国内図書〉

岩手：府県統計書集成(明治～昭和)

新潟：上杉文庫

大阪：赤木文庫蔵「古浄瑠璃」コレクション

大分：大正新脩大蔵経

昭和 59 年度

〈外国図書〉

北海道：ベルンシュタイン・コレクション

東北：米国連邦議会・委員会刊行諸報告書・文書(1789—1903)

図書館情報：印刷・製本・出版関係コレクション

筑波：新大陸の赤道地方への旅行記

東京：17—20世紀フランスの教育学

東京医科歯科：アメリカ独立革命に関する発行されたパンフレット

東京学芸：欧米障害児教育基本文献集成

東京芸術：ルネッサンス寓意図像

横浜国立：ヨーロッパの大縮尺地図集成

静岡：日刊紙 Le Monde 1944—1983

※詳細は下欄参照のこと

名古屋：英国近世初期書籍集成

京都：ゴールドスミス・クレス図書館所蔵経済学基本文献集成

京都教育：鍵盤楽器研究学位論文集

大阪：ロシア語定期刊行物コレクション

奈良女子：食物と栄養

九州：両世界評論 Revue des Deux Mondes

琉球：ハワイタイムス

〈国内図書〉

上越教育：心理学研究

岐阜：大東急記念文庫・古写・古版物語文学

三重：連歌俳諧書集成

神戸：東寺百合文庫

奈良教育：近代日本教育統計資料集

徳島：府県統計書集成(明・大・昭前)

Le Monde, 1944—1983.

マイクロフィルム(ポジ) 318 リール 35 mm

今回、附属図書館に昭和 54 年度の「国際連盟関係コレクション (League of Nations Documents)」に引続き、第 2 回目として昭和 59 年度文部省大型図書購入費の配分を受けて購入したフランスの新聞(日刊)。マイクロフィルム版で 409 万円相当のもの。

なお、備付場所は 5 階マイクロ資料室、利用申込窓口は参考調査係です。

■図書館委員会委員名簿 (昭和 60 年度)

図書館長	中村博保
分館長	藤田郁夫
人文学部	村上義和 復本一郎
教育学部	今山延洋 木宮一邦
理学部	山下繁男 菅沼英夫
工学部	佐々木彰
農学部	加藤芳朗 邨田卓夫
教養部	中野偉夫 荒川紘
電子研	渡辺健蔵 安藤隆男
電子科研	田中昭 堀部安一
法経短期	足立昌勝
本部	小山忠男
図書館	酒井豊

■図書館委員会報告

昭和 59 年度 第 3 回 S 60. 3. 15

議事

- 1 昭和 60 年度図書館経費の編成方針について、従来どおりの方針により編成することを承認した。
- 2 昭和 60 年度図書資料 (大型コレクション) 収書計画調書について、1 点を提出することを了承した。
- 3 図書館業務の電算化について、来年度、概算要求をする方向で、新年度の図書館委員会で審議することとした。
- 4 寄贈図書の取扱いについて、今後、館内で検討することとした。

昭和 60 年度 第 1 回 S 60. 5. 10

議事

- 1 昭和 60 年度図書館経費の予算案について、審議の結果、委員会としてこれを了承し、委員会案として部局で検討願うこととした。
- 2 昭和 61 年度概算要求事項について、審議の結果、電子計算機の要求については条件を付して、概算要求することを了承し、部局で検討願うこととした。

お知らせ (本館)

◎夏季休業中の長期貸出

貸出冊数：5 冊以内

貸出開始：昭和 60 年 7 月 8 日から

返却期限：昭和 60 年 9 月 19 日まで

◎他大学の図書館への紹介

他大学の図書館の資料を利用したい人には、紹介状を発行しています。卒業論文やレポートの作成などにご利用下さい。

希望者は参考調査係の窓口まで。(大学院生は、共通閲覧証を利用して下さい。)

■人事異動

新任 (60. 7. 1 付)

中村博保 館長 (教育学部・教授)

退任 (60. 6. 30 付)

大月卓郎 館長 (工学部・教授)

配置換 (60. 4. 1 付)

小松保夫 整理課長→岐阜大学人事課長

繪鳩彰 閲覧課長→千葉大学附属図書館閲覧課長

松村忠文 豊橋技術科学大学教務部図書課長→整理課長

徳永博陸 東北大学附属図書館閲覧課長→閲覧課長

昇任 (60. 4. 1 付)

下村一夫 図書館専門員→大分医科大学図書館長

転任 (60. 4. 1 付)

森田友久 浜松分館→名古屋大学

配置換 (60. 4. 1 付)

伊藤正範 工学部管理係→浜松分館

鈴井篤也 電子工学研究所大学院係→浜松分館 (60. 5. 1 付)

鈴木光男 整理課受入係→理学部会計係

松永幸夫 人文学部会計係→整理課受入係

採用 (60. 4. 1 付)

久部恵子 整理課整理係

退職 (60. 3. 31 付)

木村のり子 浜松分館総務主任

辞職 (60. 3. 31 付)

美濃部京子 整理課整理係

■昭和 60 年度「図書館通信」編集委員

図書館長 中村博保

教養部 荒川紘

理学部 山下繁男

参考調査係 長南千恵子

整理係 小浜進

総務係 大石啓之

運用係 中島規恵